

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-15-5/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議出席：文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。世界遺産委員会（ボン、2015（平成27）年6月28日～7月8日）、ICOMOS年次総会（福岡、2015（平成27）年10月26日～29日）、第29回 ICCROM理事会および総会（ローマ、2015（平成27）年11月15日～21日）
2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究：諸外国の中でも日本を含む世界中の文化財を保有し、独自の方法で保護しているアメリカの現状を把握するため、国内外の関係者から聞き取り調査を行うとともに、下記の日程で調査を実施した。2015（平成27）年12月14日～18日 ゲッティ保存修復研究所、ゲッティ美術館
3. 対訳法令集シリーズの刊行：本年度はメキシコについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。
4. 選定保存技術の調査：日本の選定保存技術の伝統やその技術を広く国内外に発信していくために、銚金具・建具・金襴・杼（京都）、宇陀紙・鬼瓦（奈良）、苧麻糸手績・琉球藍（沖縄）、粗苧（大分）、昭和村からむし（福島）、漆掻き（岩手）、漆掻き用具製作（青森）、邦楽器原糸（滋賀）、玉鋼（島根）、手漉和紙用具（静岡）など15種類の技術について調査を実施し、カレンダーおよび報告書を刊行した。東京文化財研究所ロビー展示（2016（平成28）年3月～9月）においても写真パネルによる成果公開を行った。

発表

- ・二神葉子「世界遺産委員会における諸課題とその解決、及び世界遺産条約の文化財保護への活用に向けての試論」企画情報部研究会 15.4.21

刊行物

- ・カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」（壁掛版・卓上版）東京文化財研究所 15.11
- ・『各国の文化財保護法令シリーズ[20]メキシコ』東京文化財研究所 16.3
- ・『世界遺産用語集』東京文化財研究所 16.3
- ・『選定保存技術に関する調査報告書1和鋼』16.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、草薙綾、長谷川泉、橋本広美、半戸文（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）



ICCROM 総会の審議の様子（ローマ）



東京文化財研究所ロビー展示

『世界遺産用語集』(②セ01の一環として実施)

本書は世界遺産の推薦や保全状況報告の際に重要となる77件の用語について、英語とその和訳、定義をまとめたもの。2012～15年の世界遺産委員会などでの議論や関連事項についての解説も付している。2016年3月刊行、144ページ。



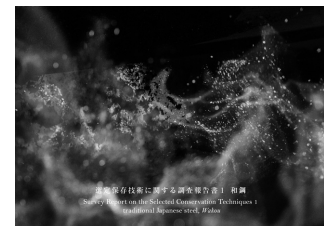
『各国の文化財保護法令シリーズ [20] メキシコ』(②セ01の一環として実施)

本冊子は、メキシコの文化遺産保護に関する法令「考古学・芸術・歴史的記念物及び地区に関する連邦法」を、原文のスペイン語から和訳したものである。巻末には原文も併せて掲載している。日本語・スペイン語、2016年3月刊行、79ページ。



『選定保存技術に関する調査報告書 1 和鋼』(②セ01の一環として実施)

日本の選定保存技術を海外に紹介するために調査を行った、玉鋼製造(たたら吹き)に関する調査報告書。たたら吹きは日本古来の製鉄技術で、日本刀製作に欠かせない不純物の非常に少ない玉鋼が製造される。日本語・英語、2016年3月刊行、160ページ。



カレンダー2016「文化財を守る日本の伝統技術」(壁掛版・卓上版)(②セ01の一環として実施)

日本の文化財に関する技術と材料を海外に紹介するため、12種類の選定保存技術について調査と写真撮影を行い、壁掛版と卓上版のカレンダー2種類を作成した。各技術についての解説を付した。日本語・英語、2015年11月刊行。



『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成27年度成果報告書』(②セ02の一環として実施)

平成27年度に東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力として、カンボジア及びミャンマーを中心に実施した諸事業の内容と事業成果、関連資料・報告等を収録。日本語、2016年3月刊行、124ページ。

